

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2395700111		
法人名	医療法人あやめ会		
事業所名	グループホームかえで		
所在地	愛知県知多郡東浦町石浜笹原28-1		
自己評価作成日	令和4年12月30日	評価結果市町村受理日	令和5年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvovsvoCd=2395700111-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvovsvoCd=2395700111-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和5年1月30日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型施設として、利用者様が住み慣れた町で生きがいを持ち、楽しく安心して過ごしていただけるよう環境作りに努めています。また、ご家族様が安心して預けることができる施設を目指しております。コロナ禍により、外出や面会の制限もあり、地域との交流の機会をあまり設けることができませんでしたが、それでも感染対策に配慮し、2年ぶりに開催された「東浦町産業まつり」に参加しました。久しぶりの外出に楽しんで楽しんでいただけたかなと思います。

また、医療面では法人母体のクリニックが徒歩圏内にあることを活かし、密に連携をとることにより、手厚い医療を受けることができる環境を整備しています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が地域の一員として安心して暮らせるように、環境づくりや適切な支援の提供に努めている。コロナ禍で外部との交流に制限が多い中、感染対策を講じ、町の行事に積極的に参加している。面会は家族に限定せず、友人・知人も受け入れており、訪問実績もある。

母体が医療法人であることから、医療面での密な連携が取れている。利用者の状況に合った医療が受けられる体制が構築されており、利用者だけでなく、家族や職員の安心にも繋がっている。

職員の育成にも力を注ぎ、提供するサービスの質の向上に努めている。外国人職員への指導は理解を得やすいように工夫しており、職員全体のスキルアップを図ることで、ホームが提供するサービスの質の向上に繋げている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員ボードに提示し、毎日職員の目につくよう配慮。会議や委員会等の開催の際に必ず一度は意識するよう心がけています。安心安全に過ごしていただける事を目標にしております。	理念をホーム内に掲示し、職員はいつでも確認することが出来る。会議や委員会などで唱和する機会を持ち、職員の理解・周知を図っている。QC活動を取り入れ、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は新型コロナウイルスの流行もあり、中止しています。施設の中で夏祭りや、クリスマス会などを開催しました。2年ぶりに地域で開催された「東浦町産業まつり」を感染対策をし、参加しました。	地域行事の多くが中止となっている現状ではあるが、「東浦町産業まつり」は開催された。感染防止対策を講じた上で参加するなど、地域との交流を意識した取組みが行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍を配慮し、中止しました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加されている各代表の意見を聞き、運営推進会議やサービス提供に活かしていますが、新型コロナウイルス感染対策の為、意見照会となりました。	コロナ禍により、書面配付での開催となっている。配付先の行政や区長・民生委員とは、意見交換や情報交換が出来る。対面での開催や、Zoomを活用しての運営推進会議の開催も視野に入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	特別な問題が発生しない限り連絡は取りあっていません。	行政の担当者とは、電話やFAX・メールといった連絡手段を活用し、意見交換や情報の共有に努めている。対面の機会はないが、ホーム運営に特に支障は出ていない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として身体拘束に関して禁止としています。委員会を設け、研修を行っています。定期的に状況の確認、把握をしています。全職員へ周知、徹底を行っています。	身体拘束廃止委員会を定期的開催しており、職員に内容を周知している。研修や会議の中で事例を検討したり、拘束の体験を通じて理解を深め、身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間を通し委員会を2回、研修を1回実施し、虐待について学んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見制度を利用している利用者様があります。職員への周知や学ぶ機会の確保はできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明については、管理者・介護支援専門員から十分な説明を行っています。不安点や不明点などの有無を確認を行っており、相談しやすい環境を提供しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族様からの意見、要望はいつでも聞かせていただく体制となっています。	日常の関わりの中で、利用者の意向・要望を聞き取っている。家族とはホームへの訪問時に話をする機会を設け、意見・要望を聞いている。把握した意見等は記録し、必要に応じて検討し、業務に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	QC活動を行い、提案された意見を担当者会議で検討し、改善につながる意見、提案は実施し運営に反映させています。	管理者と職員は日常的に話をする機会があり、意見や提案を聞くことが出来る環境がある。QCサークルの活動があり、課題を解決・改善するために検討し、ホーム運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の勤務表の事前チェック、実績状況の確認、QC活動報告書等を通じて、職員のやる気や勤務状況の把握ができるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	担当者より、最新の社外研修情報を毎月提示して、職員の受講を促している。法人内の研修は進んでいません。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	時間的な制約もあり、他業者との交流の機会は設けられていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様、ケアマネージャーから事前に情報を得て、また本人様の話をしっかり聞いて、安心感をもって入居いただけるよう配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の段階で、十分な説明を行い、その際ご家族様等からの疑問、不安等を聞いて、可能なことはその場で対応するなど、初期の段階から関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、ご家族様との面談を通じて、またこれまで行われてきたケアプランより必要な支援を考え、本施設でなにかができるかを考えています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることは、出来るだけ本人に行っていただき、出来ないことに関して支援をし、ともに生活していることが実感できる環境作り心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様参加出来る施設行事の開催、理髪希望や通院等の連絡を通じて、いわゆる預けっぱなしの関係ではなく、ともに支えていく環境づくりに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	契約時にこれまでの生活歴を聞き取り、入居後もこれまでと変わらない生活習慣が可能な限り継続できるように、ご家族様等に協力を依頼している。	コロナ下ではあるが、感染防止対策を講じ、家族や友人・知人の訪問を受け入れている。家族の協力を得て、墓参りに行くこともある。利用者の生活歴を把握し、趣味や習慣の継続も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護計画により利用者様一人一人の状況を把握したうえで、それぞれの個性を大切にしながら、利用者様が孤立せず、仲良く関わり合えるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特別な要件がある場合を除いて、事業所からの連絡はしていませんが、求められることがあった場合は、安心、納得していただけるよう支援を行います。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	契約時の情報、ケアプラン、ご家族様や本人様からの聞き取りを通じて、希望等の把握に努めています。可能な限り、意向に添える様工夫しています。	利用者の思いや意向は、入居時のアセスメントや日常の関わりの中で把握するように努め、記録に残している。記録を基に、利用者や家族の意向や思いに沿った支援が提供出来るよう、検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時の情報、ケアプラン、ご家族様や本人様からの聞き取りを通じて、好きなことや生活歴、馴染みの暮らし等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の基本的な情報を把握したうえで、職員各自が、利用者様一人一人に寄り添い、日々の暮らしの様子を伺うことで、現状の把握を行い、その情報を共有することで、寄り添った支援につなげています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の状況をケアマネ自身で把握し、更に介護職員やご家族様の意見を聞いて、現状にあった介護計画を作成しています。	介護支援専門員が利用者の状況を把握し、検討した上で介護計画を作成している。介護計画は3ヶ月・6ヶ月で見直し・更新されるが、状態に変化があればその都度検見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は電子カルテへの個別入力で行っています。利用者様の情報を職員間でタブレットで共有し、介護計画の見直し等に役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しいニーズが既存のサービスで対応できない場合は、利用者様との話し合いを通じて可能な限り希望に添えることが出来るよう、工夫をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加や地域の方々に参加していただく行事の開催を通じて、地域との交流を図ってきましたが、今年度はコロナ禍で開催できていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の母体がクリにうくで協力医療機関となっていますが、利用者様が納得して医療を受けられるように、希望を聞いて対応しております。他医療機関への受診支援も行っています。	協力医の月に2回の訪問診療があり、24時間のオンコール体制が構築されている。専門の診療科への受診は原則家族対応となっているが、ホームでの対応も可能である。看護師3名の配置があり、安心感がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員からの目で差はありますが介護職員しか見れない視点での気づきはあると思うので、変化があった場合は看護師に報告、相談をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報共有を正確に行うことで、適切な医療がうけられるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時から重度化した場合や、終末期の意向を伺っています。重症化した時も再度、ご家族様の意向の確認をし、対応をしています。	重度化・終末期の対応については、入居時に確認している。利用者が重度化した場合は医師を含めた話し合いを行い、方針を決定し、最善な対応が出来るよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、利用者様の急変、事故に備えています。委員会や勉強会でも取り上げ、全職員がいざというときに適切に対応できるように心がけています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回消防訓練を実施しています。年1回は消防署の方の立ち合いによる訓練を行っています。	年に4回の消防訓練を行い、利用者も参加している。BCP(事業継続計画)が作成され、年間計画に沿った防災への取組みがある。防災用品や非常用食料が備えられ、非常時の対応マニュアルも整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	幼稚言葉等による声掛けはせず、利用者様が不快にならないような丁寧な声掛けをしています。外国人スタッフについては随時説明や指導を行っています。	利用者の人格を尊重し、羞恥心やプライバシーに配慮した対応を心がけている。接遇や人権擁護についての研修があり、外国人職員への指導も、理解しやすいように工夫して行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアを行うにあたってまずは本人に確認をとるようにしています。本人の意向を傾聴や会話の中から聞き出して希望に沿った対応をし、自己決定を促しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の時間の流れは決まっているが、その中で本人様がくつろいで過ごせるように一人一人のペースを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった服装、身だしなみに対しては、声掛けを行い、場合によってはお手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立が決まっている為、要望にはなかなか応えられない部分があるが、月2回の手作りおやつは利用者様の意見を取り入れ、利用者様が食べたいもの、作りたいものになっている。準備、片付け等は自ら率先して行ったださる。	3食ホームで調理しており、利用者ができることは職員と共に行っている。利用者からのリクエストには、月に2回のおやつレクで応えている。季節に因んだメニューの提供もあり、楽しい食事場面を演出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに関しては委託している会社に任せています。水分量や、食事摂取量に関してはしっかり記録をとり管理しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各ユニットに洗面台があり、そちらで口腔ケアを行っている。自己にて口腔ケアを行う利用者様も、磨き残し、残渣がないか確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様のその時の状態に対応を行っている。利用者様、それぞれに対応した排泄支援を行っている。尿量に応じたパット等を使用しコストの軽減も配慮しています。	利用者の排泄状況を把握し、個々に対応している。ホームとしては、トイレでの排泄を基本とした支援を行っており、排泄用品の選定・介助方法を常に検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便チェックの確認は必ず行っています。便秘気味の利用者様には水分を増やしたり、下剤を追加している。トイレに行く際は、腹部マッサージも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の配置人数の関係もあり、利用者様が入りたいときに入れるという状況ではありません。入りたくない拒否がある場合は時間や日程をずらしている。	週に2回の入浴機会がある。体調や意向を考慮し、ホームの都合で無理強いすることの無いよう支援している。柚子湯などの提供もあり、入浴が楽しい時間となるよう心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様によっては夜遅くまで起きている方もいればすぐ居室に戻られる方もいます。特別な理由がない限りは利用者様の意思を尊重しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては必ずダブルチェックを行っています。服薬時の用法、副作用等については委員会で取り上げ、勉強をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様それぞれの生活歴を把握して、楽しみや存在感を抱いて生活出来るよう、レク等にも工夫をしています。季節の行事も取り入れ気分転換も行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日は散歩をしたり、外でコーヒーを飲んだりしています。コロナ禍なので遠方への行楽行事は控えています。	コロナ禍により、遠出は控えており、ホーム周辺の散歩や敷地内での外気浴を支援している。利用者からは外出を望む声があり、コロナ禍終息後の取組みとして位置付けている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様の理解、ご家族様の要望により、本人様にはお金を持たせない方がほとんどです。必要時にはあらかじめご家族様に連絡し、用意していただくこともあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的には施設からの電話は行っていません。ご家族からかかってきた電話には、本人様につながりことはしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除、整理整頓を行い利用者様が不快にならないよう整えています。季節に合わせた飾り付けを行ったりして、心地よく過ごせるよう工夫をしています。	利用者が日中を主に過ごすリビングは落ち着いた雰囲気があり、季節感を演出する飾り付けがある。利用者の安全な移動動線を確保しており、衛生にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士が話し合える席の配置にしたり、間隔をあけた席の配置により一人の時間を過ごせるように工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望があれば持ち込んだ家具を使用させていただいています。本人様にあった環境作りを目指し、職員目線にならないよう配慮しています。	居室への家具・調度品の持ち込みは自由で、利用者が落ち着いて安全に過ごせるように配慮している。共有空間同様に、衛生面にも心を配り、清潔を保っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立歩行されている利用者様が多く、生活の妨げにならないように施設内の導線に配慮を行っています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2395700111		
法人名	医療法人あやめ会		
事業所名	グループホームかえで		
所在地	愛知県知多郡東浦町石浜笹原28-1		
自己評価作成日	令和4年12月30日	評価結果市町村受理日	令和5年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2395700111-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2395700111-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和5年1月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型施設として、利用者様が住み慣れた町で生きがいを持ち、楽しく安心して過ごしていただけるよう環境作りに努めています。また、ご家族様が安心して預けることができる施設を目指しております。コロナ禍により、外出や面会の制限もあり、地域との交流の機会をあまり設けることができませんでしたが、それでも感染対策に配慮し、2年ぶりに開催された「東浦町産業まつり」に参加しました。久しぶりの外出に楽しんで楽しんでいただけたかなと思います。また、医療面では法人母体のクリニックが徒歩圏内にあることを活かし、密に連携をとることにより、手厚い医療を受けることができる環境を整備しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員ボードに提示し、毎日職員の目につくよう配慮。会議や委員会等の開催の際に必ず一度は意識するよう心がけています。安心安全に過ごしていたでける事を目標にしております。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は新型コロナウイルスの流行もあり、中止しています。施設の中で夏祭りや、クリスマス会などを開催しました。2年ぶりに地域で開催された「東浦町産業まつり」を感染対策をし、参加しました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍を配慮し、中止しました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加されている各代表の意見を聞き、運営推進会議やサービス提供に活かしていますが、新型コロナウイルス感染対策の為、意見照会となりました。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	特別な問題が発生しない限り連絡は取りあっていません。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として身体拘束に関して禁止としています。委員会を設け、研修を行っています。定期的に状況の確認、把握をしています。全職員へ周知、徹底を行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間を通し委員会を2回、研修を1回実施し、虐待について学んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見制度を利用している利用者様があります。職員への周知や学ぶ機会の確保はできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明については、管理者・介護支援専門員から十分な説明を行っています。不安点や不明点などの有無を確認を行っており、相談しやすい環境を提供しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族様からの意見、要望はいつでも聞かせていただく体制となっています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	QC活動を行い、提案された意見を担当者会議で検討し、改善につながる意見、提案は実施し運営に反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の勤務表の事前チェック、実績状況の確認、QC活動報告書等を通じて、職員のやる気や勤務状況の把握ができるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	担当者より、最新の社外研修情報を毎月提示して、職員の受講を促している。法人内の研修は進んでいません。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	時間的な制約もあり、他業者との交流の機会は設けられていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様、ケアマネージャーから事前に情報を得て、また本人様の話をしっかり聞いて、安心感をもって入居いただけるよう配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の段階で、十分な説明を行い、その際ご家族様等からの疑問、不安等を聞いて、可能なことはその場で対応するなど、初期の段階から関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、ご家族様との面談を通じて、またこれまで行われてきたケアプランより必要な支援を考え、本施設でなにかができるかを考えています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることは、出来るだけ本人に行っていただき、出来ないことに関して支援をし、ともに生活していることが実感できる環境作り心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様参加出来る施設行事の開催、理髪希望や通院等の連絡を通じて、いわゆる預けっぱなしの関係ではなく、ともに支えていく環境づくりに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	契約時にこれまでの生活歴を聞き取り、入居後もこれまでと変わらない生活習慣が可能な限り継続できるように、ご家族様等に協力を依頼している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護計画により利用者様一人一人の状況を把握したうえで、それぞれの個性を大切にしながら、利用者様が孤立せず、仲良く関わり合えるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特別な要件がある場合を除いて、事業所からの連絡はしていませんが、求められることがあった場合は、安心、納得していただけるよう支援を行います。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	契約時の情報、ケアプラン、ご家族様や本人様からの聞き取りを通じて、希望等の把握に努めています。可能な限り、意向に添える様工夫しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時の情報、ケアプラン、ご家族様や本人様からの聞き取りを通じて、好きなことや生活歴、馴染みの暮らし等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の基本的な情報を把握したうえで、職員各自が、利用者様一人一人に寄り添い、日々の暮らしの様子を伺うことで、現状の把握を行い、その情報を共有することで、寄り添った支援につなげています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の状況をケアマネ自身で把握し、更に介護職員やご家族様の意見を聞いて、現状にあった介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は電子カルテへの個別入力で行っています。利用者様の情報を職員間でタブレットで共有し、介護計画の見直し等に役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しいニーズが既存のサービスで対応できない場合は、利用者様との話し合いを通じて可能な限り希望に添えることが出来るよう、工夫をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加や地域の方々に参加していただく行事の開催を通じて、地域との交流を図ってきましたが、今年度はコロナ禍で開催できていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の母体がクリにうくで協力医療機関となっていますが、利用者様が納得して医療を受けられるように、希望を聞いて対応しております。他医療機関への受診支援も行っています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員からの目で差はありますが介護職員しか見れない視点での気づきはあると思うので、変化があった場合は看護師に報告、相談をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報共有を正確に行うことで、適切な医療がうけられるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時から重度化した場合や、終末期の意向を伺っています。重症化した時も再度、ご家族様の意向の確認をし、対応をしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、利用者様の急変、事故に備えています。委員会や勉強会でも取り上げ、全職員がいざというときに適切に対応できるように心がけています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回消防訓練を実施しています。年1回は消防署の方の立ち合いによる訓練を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	幼稚言葉等による声掛けはせず、利用者様が不快にならないような丁寧な声掛けをしています。外国人スタッフについては随時説明や指導を行いつつあります。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアを行うにあたってまずは本人に確認をとるようにしています。本人の意向を傾聴や会話の中から聞き出して希望に沿った対応をし、自己決定を促しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の時間の流れは決まっているが、その中で本人様がくつろいで過ごせるように一人一人のペースを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった服装、身だしなみに対しては、声掛けを行い、場合によってはお手伝いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立が決まっている為、要望にはなかなか応えられない部分があるが、月2回の手作りおやつは利用者様の意見を取り入れ、利用者様が食べたいもの、作りたいものになっている。準備、片付け等は自ら率先して行ったださる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに関しては委託している会社に任せています。水分量や、食事摂取量に関してはしっかり記録をとり管理しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各ユニットに洗面台があり、そちらで口腔ケアを行っている。自己にて口腔ケアを行う利用者様も、磨き残し、残渣がないか確認している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様のその時の状態に対応を行っている。利用者様、それぞれに対応した排泄支援を行っている。尿量に応じたパット等を使用しコストの軽減も配慮しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便チェックの確認は必ず行っています。便秘気味の利用者様には水分を増やしたり、下剤を追加している。トイレに行く際は、腹部マッサージも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の配置人数の関係もあり、利用者様が入りたいときに入れるという状況ではありません。入りたくない拒否がある場合は時間や日程をずらしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様によっては夜遅くまで起きている方もいればすぐ居室に戻られる方もいます。特別な理由がない限りは利用者様の意思を尊重しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては必ずダブルチェックを行っています。服薬時の用法、副作用等については委員会で取り上げ、勉強をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様それぞれの生活歴を把握して、楽しみや存在感を抱いて生活出来るよう、レク等にも工夫をしています。季節の行事も取り入れ気分転換も行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日は散歩をしたり、外でコーヒーを飲んだりしています。コロナ禍なので遠方への行楽行事は控えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様の理解、ご家族様の要望により、本人様にはお金を持たせない方がほとんどです。必要時にはあらかじめご家族様に連絡し、用意していただくこともあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的には施設からの電話は行っていません。ご家族からかかってきた電話には、本人様につながりことはしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除、整理整頓を行い利用者様が不快にならないよう整えています。季節に合わせた飾り付けを行ったりして、心地よく過ごせるよう工夫をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士が話し合える席の配置にしたり、間隔をあけた席の配置により一人の時間を過ごせるように工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望があれば持ち込んだ家具を使用いただいています。本人様にあった環境作りを目指し、職員目線にならないよう配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立歩行されている利用者様が多く、生活の妨げにならないように施設内の導線に配慮を行っています。		